

立教大学学術推進特別重点資金 (立教 S F R)
 共同プロジェクト研究
 2023 年度研究【経過・成果】報告書

| | | | | | | | | |
|---------------------------------------|-------------------------------|-------------------|-----------|---|-----------|---|-----------|---|
| 研究代表者 | 所属部局・職名 | | 氏名 | | | | | |
| | 法学部・教授 / ESD 研究所・所長 | | 河村 賢治 | | | | | |
| 研究課題 | 地域創生拠点における SDGs・脱炭素実施状況の調査と提言 | | | | | | | |
| 研究組織 (研究代表者・研究分担者) 2024 年 3 月現在 | 所属研究機関・部局・職名 | | 氏名 | | | | | |
| | 法学部・教授 / ESD 研究所所長 | | 河村 賢治 | | | | | |
| | 文学部・特別専任教授 / ESD 研究所副所長 | | 上田 信 | | | | | |
| | 観光学部・教授 / ESD 研究所運営委員 | | 橋本 俊哉 | | | | | |
| | 社会学部・教授 / ESD 研究所運営委員 | | 関 礼子 | | | | | |
| | 文学部・教授 / ESD 研究所運営委員 | | 河野 哲也 | | | | | |
| | コミュニティ福祉学部・教授 / ESD 研究所運営委員 | | 空閑 厚樹 | | | | | |
| | スポーツウエルネス学部・准教授 / ESD 研究所運営委員 | | 奇二 正彦 | | | | | |
| | 立教大学・名誉教授 / ESD 研究所運営委員 | | 阿部 治 | | | | | |
| | 全研究期間 | 2023 年度 ~ 2025 年度 | | | | | | |
| 研究経費※ (上段: 支出金額) (下段: 採択金額) | 2023 年度 | | 2024 年度 | | 2025 年度 | | 総計 | |
| | 1,642,000 | 円 | 0 | 円 | 0 | 円 | 1,642,000 | 円 |
| | 2,071,000 | | 2,290,000 | | 1,238,000 | | 5,599,000 | |

※1 円単位で記入

研究の概要 (200~300 字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

国連が 2030 年をゴールとする the 2030 Agenda for Sustainable Development を提示してからまもなく 10 年となり、その進捗状況を検証し、残りの期間でゴールに向けてどのように活動を展開するか検討すべき時期にさしかかっている。また、日本が掲げている 2050 年カーボンニュートラル達成に貢献する必要がある。そのために大学と地域とが連携を深め、地域における脱炭素化の実態を調査し提言を行い、あわせて地域経済の活性化や災害に強い地域づくりの道程を検討する。本プロジェクトでは、ESD 研究所が覚書を交わしている 6 自治体、内閣府地方創生推進室「SDGs 未来都市」や環境省「脱炭素先行地域」に選定された自治体をフィールドとして、現地調査を踏まえて研究を展開する。地域が直面している課題を、地元住民とともに発見し、理論⇒調査⇒研究⇒実践⇒調査⇒普遍的理論…というサイクルを確立し、その基礎の上で大型の外部資金の獲得を目指す。

キーワード (研究内容をよく表しているものを 3 項目以内で記入。)

[地域創生] [SDGs] [アクションリサーチ]

研究【経過・成果】の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

本学 ESD 研究所は北海道羅臼町、福島県檜枝岐村、静岡県西伊豆町・松崎町、長野県飯田市、長崎県対馬市と連携を継続する覚書を交わし、これまで ESD に関する調査と実践に関わってきた。この成果に基づいて、2023 年度は 6 自治体との新たな事業を推進するために、現地を訪問し現状を把握することに努めた。

羅臼町現地調査(2023 年 8 月)

河村・上田・空閑が羅臼を訪問した。調査の結果として、町内のすべての学校がユネスコスクールに加盟し、幼小中高一貫教育の柱として知床学——世界自然遺産である知床の自然(生物の多様性、生態系の相互関係、野生生物との共存)や人々の暮らし(産業、歴史、文化)を通してふるさとを愛する気持ちと主体的に様々な課題解決に向けて行動する力を育む学習——に取り組んでいることを確認。ふるさと少年探検隊の活動を含めて、こうした地域学が展開されている様子を伺うことにより、環境・社会・経済課題の同時解決を目指す地域循環共生圏を実現する上で地域学が重要な役割を果たしうることが再確認した。羅臼町および秩父市が環境省助成金申請を予定していることをふまえ、地域住民主導の地域エネルギー自給体制の重要性について小川町や他自治体の動向についての調査研究を進め、羅臼町での取り組みにフィードバックできるものがあるか検討を進めたい。

檜枝岐村職員研修(2024 年 3 月 12~13 日、於立教大学)

ESD 研究所と「ESD 研究に関する覚書」を交わしている福島県南会津郡檜枝岐村の職員 8 名が立教大学を訪れ、2017 年に村政 100 周年を迎えた村の、次の 100 年を見据えた ESD 的職員研修を実施した。引き続き実施を希望する声が出るなど、有意義な研修であったと評価された。

①檜枝岐村の課題を紐解く対話(上田信)

村の課題をふまえ、そこにある地域資源(モノ、ヒト、コト)を意識化し相互に共有した。檜枝岐村の文脈のなかに、各地での SDGs に資する活動・学びを位置付けながら、対話的に考察した。

②檜枝岐村「郷土史」に関する対話(関礼子)

風土の歴史や文化を学び、資源化する試みとして、檜枝岐村「郷土史」を素材にした問題に回答、各地の「ご当地検定」の事例を紹介した。

③ESD と地域づくりに関する講演と対話(河村賢治)

立教大学の精神や ESD 研究所の活動を踏まえながら、自然体験学習からエネルギー自給などの実践事例を交えた講演を行い、村が抱える諸問題を解決するうえで大学をハブとした知の利用について対話した。

松崎町・西伊豆町調査(2023 年 9 月 12~15 日)

上田が松崎町と西伊豆町を訪問し、地域創生の現状を調査した。松崎町での特筆される成果として、現地の企業が山林を使った地域創生を研究し、森林アクティビティ、無農薬農業、自然食品の事業化に取り組んでいることを確認できたことを挙げることができる。地方の中小企業に求められる者は安定雇用を目指しており、地域創生の具体的な取り組みとして今後も継続して調査を進めていく。

西伊豆町安良里の KAMO' n house に元 IVUSA 職員で今年 3 月まで西伊豆町地域おこし協力隊であった高井氏を訪ね、西伊豆町「森と海の 6 次産業」について、林業の抜けているところを補うことを目標と掲げる林業コンサル「トビムシ」と町とで連携し、プランを立てている状況を確認した。

対馬市(2023 年 8 月 23~25 日、11 月 12~14 日、2024 年 3 月 16~18 日)

河村と上田が対馬を訪問。地域文化の一つとして、対馬固有の対州馬がある。地域おこし協力隊の吉原知子氏(子どもの頃より代々木ハーモニーセンターで馬に触れてきた)が関わりながら、対州少年乗馬クラブを展開(対馬の各小学校から現在 12 名が参加)。馬とのコミュニケーションは対人関係が苦手な子どもの心を開くという。地域の特色を生かす取り組みとして注目することができる。

対馬では藻場再生の取り組みなどについて調査。船外機の舟で環境省の 2 名とともに視察した。2014 年までは繁茂していたが、15 年から消えたという。現在は藻場再生のために有機物を供給する山野の整備を行うとともに、地球温暖化の影響で従来はいついかなかった魚類による食害を防ぐ取り組みを進めている。藻場再生に取り組む漁師の方の話聞くことで、地域の方々との対話を通じた協働の重要性について理解を深めることができた。

対馬は日本海に入り込む海洋プラスチックを防波堤のように受け止めているのみならず、訪問時は核のごみ処分地調査を受け入れるかどうかの議論が行われている時期でもあった。一地域に負担を押し付ける(しかも多くの方はそれに気がついていない)社会システムの問題を強く意識することもできた。

なお、対馬では本学の映像身体学科の学生を中心とした海洋プラスチックに関するドキュメンタリーの作成が行われ、2024 年 3 月 17 日に対馬で開催された「対馬学フォーラム」で発表が行われた。ESD 研究所としてこうした学生の自主的な取り組みを側面から支援した。

研究【経過・成果】の概要 (つづき)

阿部は 2013 年から対馬市域学連携地域づくり実行委員会副会長として、ESD による地域創生の具体化に努め、2015 年開始の対馬学フォーラムや 2019 年開始の対馬グローバル大学の提案・具体化にかかわってきたが、現在は対馬市 SDGs アドバイザリーボードメンバーとして対馬における SDGs 推進施策にかかわっている。これらの経験を通じて対馬市における ESD 地域創生人材並びに SDGs 人材の育成のプロセスを知る立場にある。11 月 13 日開催の SDGs アドバイザリー会議において同市における SDGs 推進施策へのアドバイスを行うとともに 2024 年 3 月開催の対馬グローバル大学 2023 (2024 年 3 月 17 日) にアドバイザーとして参加し、同市における ESD 地域創生の成果と課題を把握し、今後の展開の可能性について考察を行った。

飯田市(2023 年 6 月 21~22 日、12 月 17~15 日、2024 年 2 月 24~26 日)

阿部は本研究所の ESD 地域創生プロジェクト研究の下で飯田市遠山郷地区における保育園(2園)小学校(2校)中学校(1校)における ESD 推進による ESD 地域創生人材育成に取り組んできており、今期も市長・教育長・関係部局関係者たちとの合同研究会である飯田市 ESD 地域創生研究会(12 月 18 日)への参加、遠山郷地区住民による遠山 3 校園 ESD 集会(2024 年 2 月 25 日)に参加し、保育園から中学校まで ESD 連携の進展、地域住民の過疎化への危機感と取り組みなどを確認した。さらに飯田市が環境省の脱炭素先行地域に 2023 年度指定されたことから、同市における脱炭素の取り組み及び環境教育・ESD とのかかわりについて担当課から聞き取りを行った(6 月 22 日)。以上の連携自治体での調査・実践に基づき、下記の講演を行った。

小田原ファミサポ大学での講義(2023 年 11 月 2 日) 河村

町田青年会議所での講演(2023 年 11 月 9 日) 河村・上田

対馬グローバル大学での講義(2024 年 1 月 13 日) 河村

覚書を交わした 6 自治体のほかに、下記の実践を進めた。

沖縄環境教育対話の実践(2023 年 9 月 7~10 日)

河野・奇二は SDGs の視点から、沖縄県各地で、地域の自然・社会・歴史・文化的価値の再発見とその課題の認識を目的にした地域創生教育を実践し、その教育方法について開発していく教育実践研究を進めた。具体的には、開邦中学校、西原東小学校、アミークスインターナショナルでの環境体験・哲学対話、琉球新報社での哲学カフェ・ファシリテーター養成講座、南風原公民館での平和教育・哲学対話を行い、自然と社会・文化・歴史に関する体験型の学習とそれについての哲学対話を実施し、その実践を記録分析して、SDGs 的地域創生教育の方法を開発した。学生・研究生は、体験学習と哲学対話の補助(ファシリテーションを含む)、記録・資料収集の補助を行った。

岩手県宮古市現地調査(2023 年 7 月 14~16 日)

橋本は現地の調査パートナーである観光文化交流協会、地域づくり協力隊の方々と、宮古市内の方々に東日本大震災の記憶と復興について話を聴き、その内容を冊子としてまとめたまち歩きマップを作成し、宮古市役所や観光協会、協力店舗に配布して、地元住民や観光客に手に取ってもらえるようにした。

福島県北塩原村調査(2023 年 9 月 1~4 日)

橋本は、東日本大震災と新型コロナウイルスの影響や村の振興の課題等について、村の商工観光課や裏磐梯エコツーリズム協会、北塩原商工会、観光事業者らに集中的に聞き取り調査を行い、災害の影響の共通点と相違点の分析、それと関連する村の課題の構造を整理することができた。

エネルギー地域自給研究会を 3 回(2023 年 9 月 16 日、2023 年 12 月 16 日、2024 年 3 月 2 日)

9/16(小川町役場): 秩父新電力 C00 滝澤隆志氏をお呼びして、地域電力を始める上での現状、課題、可能性について、秩父新電力発足の経験を交えてお話いただいた。その後、参加者でそれぞれの地域の状況について情報交換した。

12/16(エコデザインコミュニティスペース): グリーンピープルズパワー代表竹村英明氏をお呼びして、これまでの竹村氏の活動、電力高騰の背景、地域住民運営による再生可能エネルギー事業の重要性をお話いただいた。その後、参加者で地域電力を始めるにあたりどのような課題があるのか話し合った。

3/2(立教大学池袋キャンパス): 佐藤太氏、菱田伊駒氏をお呼びし、地域活動を行う上で対話を行うことの重要性と課題を経験に基づき紹介していただいた後、対話を促進し深める方法としての哲学対話について河野から説明を行い、参加者全員で対話の実践を行った。

エネルギー地域自給自主勉強会

2023年10月13日、小川町の現状についての情報を共有した後参加者で電力地域自給体制について意見および情報交換した。

2023年11月17日、映画「シェーナウの想い」を視聴後、地域電力発足について意見および情報交換した。

地域電力設立準備会（仮称）

2/1：地域新電力設立についての情報交換、今後の予定

3/7：既存の地域新電力についての情報交換

ESDを座学での学びで終わらずに具体的な行動（地域エネルギー自給体制構築）につなげることを目標として連続研究会を実施した。その結果、研究会参加者による自主勉強会開催を経て地域電力設立準備会発足に至った。

研究会「哲学対話と地域交通計画への子どもの参画」（3月19、20日）

ハワイ大学マノア校上廣アカデミーより講師を二人招聘し、「哲学対話と地域交通計画への子どもの参画」という題で研究会を行った。両日ともに20名程度の参加者が集まった。19日はハワイ大学とハワイ州政府の都市交通計画の機関が協働しているプロジェクトについて、事例報告をしていただいた。事例報告の中では、子どもたちの政治参加への権利について、歴史的、学問的に語られた。また、ハワイ大学とホノルル州政府機関、そして現地の学校がどのように協力をして子どもたちの思考や意見を取り入れながら政策を作っていくのか、現在取り組まれているプロジェクトについての内容とその課題をご報告いただいた。この発表により、若者の政治参画のためには複数の機関が協働する必要がある、プロジェクトとして進行させるには長い期間の準備と教材の開発、そして対話を重ねることが必要であるということが共有された。また、20日は哲学対話のハワイスタイルを実際に体験するワークショップを行なっていただいた。

※この（様式2）に記入の【経過・成果】の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差控え期間等を記入した調書（A4縦型横書き1枚・自由様式）を添付すること。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① 論文

小玉敏也、増田直広、田開貫太郎、朝岡幸彦、阿部治、「地域の持続可能性」を主題とした学校と地域の協働的 ESD の可能性ー長野県飯田市「遠山郷 ESD 推進プロジェクト」を事例としてー、環境教育、32 (3)、2023、6 - 16

関礼子、2023「最近の学術の議論から 報告 公開シンポジウム「学術と連携した環境教育の質的確保に向けて」」『学術の動向』28-5 : 108-109

③ シンポジウム等

2023 年 5 月 13 日

公開シンポジウム「学術と連携した環境教育の質的確保に向けて」(オンライン開催)

日本学術会議環境学委員会環境思想・環境教育分科会主催、立教大学文学部・社会学部共催

(河野、奇二が報告、関が司会等)

2023 年 8 月 3 日

招待講演：河野哲也「「哲学対話」を高校教育で生かす～教師に教えることで生徒は最大に学ぶ」, (財) 神奈川県高校教育会館主催「教職員のための夏季教育講座」, , 神奈川県高校教育会館.

2023 年 8 月 24 日

シンポジウム提題：Kono, Tetsuya “Philosophy with Children on Environmental Issues with Local Knowledge”, Roundtable C: Reinventing Education: Learning in the 21 Century, *CIPSH International Conference: Humanities in the Global and Digital Age: The role of Humanities research traditions and interactions in contemporary society.* at Keio University Mita Campus, Tokyo.

2023 年 8 月 25 日招待講演：河野哲也「人口減少社会における中山間地の地域活性化につながるコミュニティ作りとは?」, 主催：池田記念美術館；共催：南魚沼市；後援：浦佐地域づくり協議会, 東地区地域づくり協議会, 大崎地区地域づくり協議会, 藪神地区地域づくり協議会, 「持続可能な地域づくりセミナー」 於：池田記念美術館.

2023 年 10 月 8 日

ラウンドテーブル・企画・司会 河野哲也「対話型政治教育の意義と課題～九州での実践を踏まえて～」教育哲学会第 66 回大会, 九州大学伊都キャンパス.

2023 年 12 月 2 日

シンポジウム指定討論：河野哲也「世界への対話として創造される学びと教育の実践——子ども、学校、社会——」日本教育実践学会第 26 回研究大会, , 於：上越教育大学.

2023 年 12 月 3 日

ワークショップ：河野哲也、哲学対話ワークショップ, 日本教育実践学会第 26 回研究大会, , 於：上越教育大学.

2024 年 3 月 12 日

小森はるか「ラジオ下神白」と 3.11 (映画上映と映画をめぐる対話)、立教大学池袋キャンパス